平成16年(2004年)7月1日　第800号

広報えびな

編集・発行
海老名市役所　市長室
〒243－0492
神奈川県海老名市勝瀬175番地の1
☎（046）231・2111
URL http://www.city.ebina.kanagawa.jp
＊この広報は再生紙を使用しています。

世帯と人口

6月1日現在・（ ）内対前月比

世　帯	46,810	（＋132）
人　口	122,971人	（＋208）
男	62,594人	（＋108）
女	60,377人	（＋100）

途切れることなく半世紀

広報えびな800号記念

「広報えびな」は、今号で発行回数800回を迎えました。昭和31年、海老名町誕生の翌年、第1号が発行されて以来48年。親しみやすく・読みやすいことを念頭において、市政の動きをみなさんにお届けしてきました。市とともに成長してきた本紙のあゆみをご覧ください。

創刊時は「海老名廣報」

広報えびなは、昭和31年の創刊時、「海老名廣報」として発行されました。

当時は海老名「町」で、海老名村と有馬村の合併の事務処理に追われ、広報は発刊を休止していた状態でした。事務処理に尽力された相原賢太郎氏（88歳）は、「村と村の合併には、大変な苦労があり、すべての職員が奔走する毎日でした。発行した広報には、やはり合併についてしっかりとお知らせしておきたかった」と語ってくれました。

創刊号には、海老名・有馬村合併後1年間のあゆみが掲載され、「…合併で大切なことは住民の精神的融合である」との一節があり、当時の苦労を物語っているようです。

1956(昭31)

（写真1）

市には原本がなく状態の悪いまま縮刷版第1集に収められています。お持ちの方はご一報ください

1994(平6)

（写真2）

1997(平9)

（写真3）

市の歴史映すアルバム

広報紙面はわがまちの足跡を示し、変遷を記録したアルバムです。創刊号から各節目の号を振り返ってみましょう。

1999(平11)

（写真4）

2001(平13)

（写真5）

1号（昭和31年12月1日）

合併のあゆみに加え、町財政についてや「年末一品持ち寄り運動」の協力の呼びかけの記事がありますが、戦後ということも影響してか、まだまだ安定した暮らしを営める状態ではなかった時代を感じさせる記事です（**写真1**）。

100号（昭和47年7月1日）

100号を迎える少し前になりますが、昭和46年11月1日（第92号）に「海老名市誕生」が1面を飾り、海老名駅移設のお知らせや、小田急線の急行が停車予定であることも掲載されました。そして、100号では、現在の「広報えびな」の題字が初めて使われ、同時期に、市の花さつきや市の木つげも決定されました。

翌年には、さつき町誕生が1面で取り上げられるなど、大きくまちが変わりつつある時期でした。

昭和53年4月から広報紙は1日号（4ページ）、15日号（2ページ）の月2回発行に変更され、紙面構成に余裕ができたことから、写真やイラストの数が増え、「読みやすく・親しみやすく」に一歩前進。

下水道が利用できる地域が広がり、市の予算総額が100億円を突破。海老名高校の用地が確保されたのもこのころです。

200号（昭和54年7月15日）

人口の急増に対応した市民サービスを求める声が高まり、公共施設を充実させる動きが顕著に現れます。

市内で11番目の小学校、杉久保小学校を開校。また、市道・下水道整備も前年度を大きく上回る整備計画が掲げられ、海老名運動公園の用地買収開始などの記事が。

昭和55年4月、市文化会館と中央公民館の完成に伴い、4月10日に特別編集の広報紙を発行。以降、毎1日号の1面と8面をカラー化し、華やかな紙面に。

市内の赤ちゃんを紹介する「まんまる赤ちゃん」が、同57年8月15日号スタート。第1回は1人だけの紹介でしたが、現在は1日号8人、15日号12人を掲載する人気コーナーに成長しました。最初に登場した赤ちゃんも現在は24歳に…。

300号（昭和58年9月1日）

創刊当時2万人に満たなかった人口も9万人に手が届くところまで増加しました。それに呼応するように、ごみ対策として資源回収の奨励や、大規模な駅前駐輪場などを設置し、放置自転車対策を実施。また、市民の命を守る、消防南分署の設置もこのころです。

400号（昭和62年11月1日）

この年の干支は卯。元旦号でウサギにまつわるむかしばなしをカラーイラストを交えて掲載。以後シリーズ化に（**写真2＝戌年**）。

「悪質セールスへの注意」や「海老名の母親像を探る」、「犬害への呼びかけ」など、市民生活の多様化に対応した、新しいタイプの記事が紙面に登場。

また、本郷の工業団地建設の予定や東柏ケ谷近隣公園、JRと小田急線を結ぶ自由通路の完成についてが紙面に登場し、人口も10万人を超えました。

500号（平成4年1月1日）

平成3年から始まった資源分別回収によって、市民の関心が高まっていた資源対策・環境問題をはじめ、健康についての特集記事が目立ちます。

600号（平成8年3月1日）

かながわ・ゆめ国体の開催を前に、市内で活躍する国体出場予定選手らを平成9年から1面のシリーズで掲載開始。動きのある写真が好評でした（**写真3**）。

700号（平成12年5月1日）

先進的な技術や人物等を紹介する「21世紀へ前進する海老名」を連載（同11年1月1日～**写真4**）。

また、同13年3月1日からは、地域の事柄を広範囲に紹介する「えびな模様」の連載を開始し、現在も継続中です（**写真5**）。

同16年4月15日からは、文字を大きくし、印刷色を青からエビ茶に変更することで読みやすさに配慮しました。

1956年　国際連合に加盟
1972年　沖縄が日本に復帰
1973年　オイルショック
1978年　日中平和友好条約
1979年　共通一次試験はじまる
1980年　イラン・イラク戦争起こる
1982年　500円硬貨発行
1988年　消費税法案成立・ソウルオリンピック開催
1990年　東西ドイツ統一
1995年　阪神・淡路大震災
1998年　長野オリンピック開催
2002年　サッカーW杯日韓共催

変わらぬ思いで未来へ向けて

「広報えびな」は、その役割である、市の取り組みや生活に必要な情報を、分かりやすい言葉で、確実にみなさんの手元に届けるという目的を達成し、行政とみなさんとの信頼関係を築いていきたいと思います。

この思いは創刊から約半世紀が経過した今も、少しも変わることはありません。

広報えびなについてのご意見・提案・要望は、市長室広報担当まで、お気軽にお寄せください。